



第3回青函地域経済活性化フォーラム 意見交換会 提出資料

～青森県における現状と課題～

- 1. 雇用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
- 2. 主力産業
 - ① 水産(漁業)・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
 - ② 観光・・・・・・・・・・・・・・・・ P3

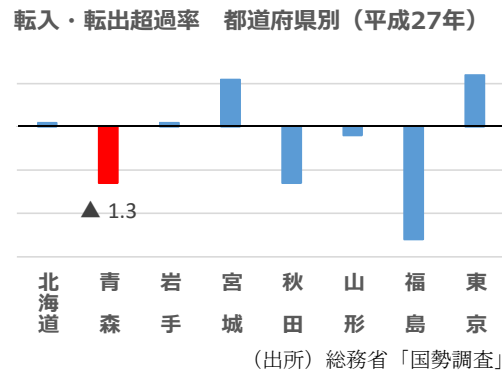
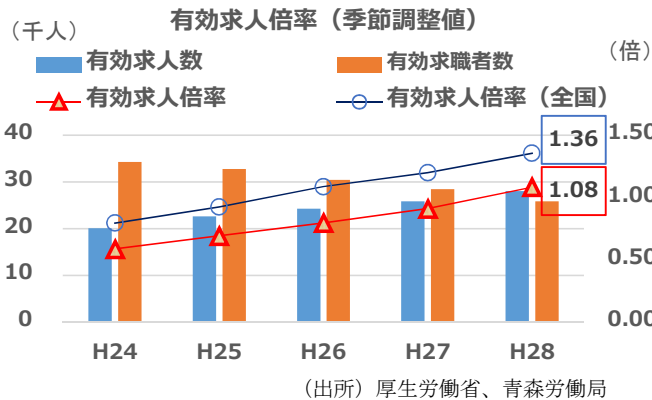
平成29年6月1日
東北財務局・青森財務事務所



1. 雇用

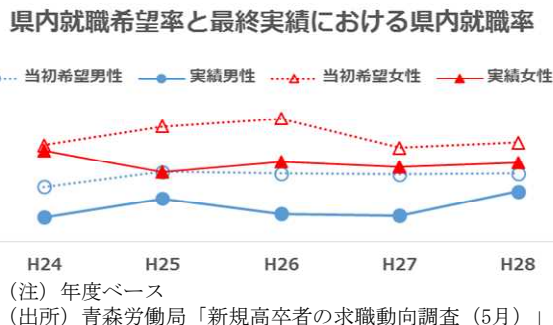
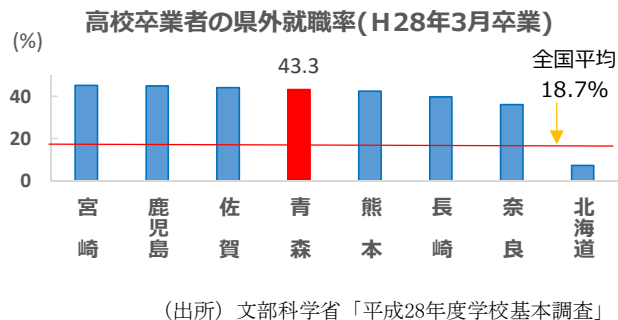
全国2位の転出超過率 (▲1.3%)

- 有効求人倍率が上昇する一方で、人口流出にブレーキがかからず、特に若年層の流出が著しいものとなっている。



県外に就職先を求める若年層

- 新規高卒者の県外就職率は43.3%と全国平均を上回り全国4位の水準。新規高卒者の就職動向をみても、県内就職率の実績は希望を下回るものとなっている。



地域の声

< 県内企業 (ヒアリング) >

- 高校卒業者の多くが首都圏への就職を希望するため、応募が集まらない。(建設業)
- 地方就職を希望する技術者が少なく、本社採用した20名程度を外向させて対応。(業務用機械)

< 若年層 (自治体アンケート) >

- 高校生に行ったアンケート調査では、現在暮らしているところに「住み続けたい」、「どちらかというに住み続けたい」という回答が約4割を占める。
- 大学卒業予定者のうち、地元出身者に行ったアンケート調査では、地元企業に就職したいと「非常に思う・やや思う」という回答が約7割を占める。

課題

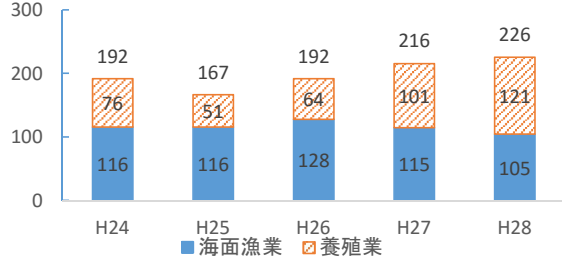
⇒若年層の県外流出

- 若年層が県外に流出する要因
- 取り組んでいる方策
- 考えられる方策

2. 水産（漁業）

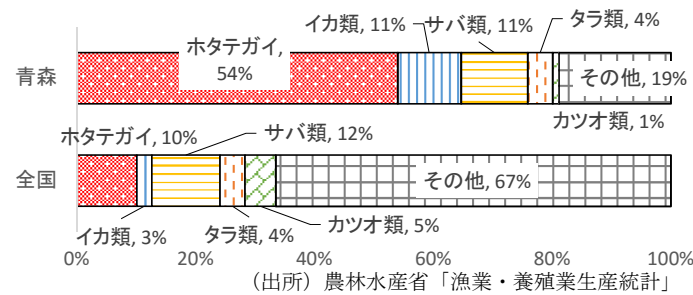
増加している生産量

（千トン） 海面漁業・養殖業生産量の推移（青森県）



（出所）農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

魚種別生産量の構成割合（平成28年）

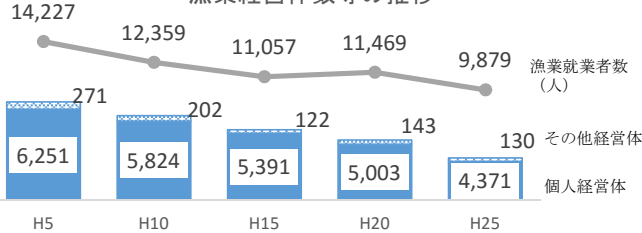


（出所）農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

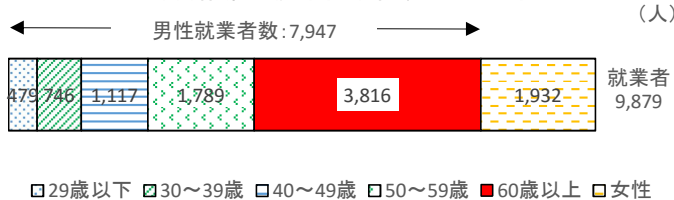
高齢化と後継者不足

- 個人経営体は減少傾向にあり、うち後継者がいない割合は80.4%。
- 就業者数の8割を占める男性のうち約5割が60歳以上。

漁業経営体数等の推移



年齢階層別漁業就業者数（平成25年）



□29歳以下 □30～39歳 □40～49歳 □50～59歳 ■60歳以上 □女性

漁業経営体に占める個人経営体比率（平成25年）

	漁業経営体		比率
		うち個人	
全国	94,507	89,470	94.7%
北海道	12,882	11,614	90.2%
青森県	4,501	4,371	97.1%

単位：経営体、%

個人経営体・後継者なし割合（平成25年）

	個人経営体		割合
		うち後継者なし	
全国	89,470	74,667	83.5%
北海道	11,614	8,926	76.9%
青森県	4,371	3,513	80.4%

単位：経営体、%

（出所）農林水産省「漁業センサス」

特徴的な取組

漁業スペシャリストの育成

➢ 佐井村の「漁師縁組事業」

- ・ 地域おこし協力隊員の活用
【就業準備段階の資金支援】
- ・ 短期研修及び長期研修【技術習得支援】
- ・ 漁業組合員の育成

→協業化法人への就職、引退漁業者から継代

➢ 漁業後継者育成研修「賓陽（ひんよう）塾」

- ・ 基礎的な知識や技術を身に付けるための各種講義やロープワーク、実習船を使った漁業実習

課題

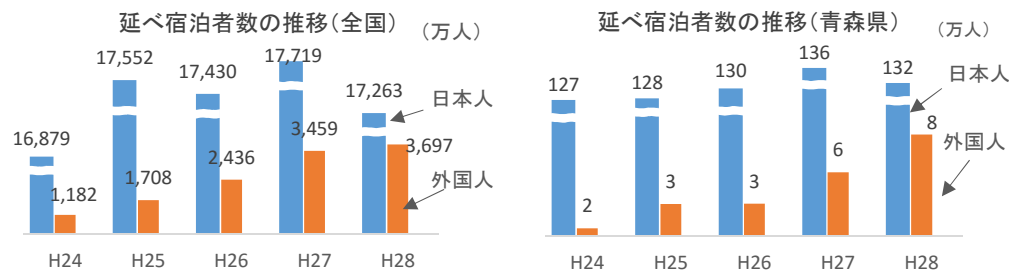
⇒後継者の確保・育成

- 全国からの就業希望者の確保
- 地元の就業希望者の発掘

3. 観光

宿泊者は増加傾向

- ▶ 全国、青森県ともに日本人宿泊者は増加傾向にあり、外国人宿泊者は大幅に増加している。



(注1) 従業者数10人以上の施設
 (注2) 延べ宿泊者数は「観光目的の宿泊者が50%以上」
 (出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

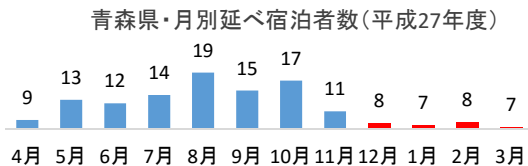
低い外国人比率、冬季の落ち込み

- ▶ 宿泊者に占める外国人比率は低い。
- ▶ 宿泊者は冬季に大きく落ち込んでいる。

宿泊者数に占める外国人比率 (平成28年)

地域	比率
全国	17.6%
北海道	26.6%
青森県	5.9%

(注1) 従業者数10人以上の施設
 (注2) 延べ宿泊者数は「観光目的の宿泊者が50%以上」
 (出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」



<地域の声>

- ▶ 青森の観光トップシーズンである夏祭りの時期に、ホテル・旅館が満室で宿泊先が無いという状況になるのは問題だと思われる。(交通)
- ▶ 外国人旅行者には、雪(雪景色、雪遊び、スキーなど)が好評。(観光施設)

旅行者の高年齢化と交通手段の変化

- ▶ 観光目的の宿泊旅行者の3割以上は60歳代以上となっている。
- ▶ 旅行者の交通手段は貸切バス、自家用車が減少し、新幹線、鉄道、レンタカーが増加している。

延べ旅行者の年齢別割合(全国)

	国内旅行(H24)		国内旅行(H28)	
		宿泊旅行(観光)		宿泊旅行(観光)
19歳以下	14.4	16.9	13.8	17.2
20代	11.1	12.1	11.3	12.5
30代	16.3	14.3	14.5	12.0
40代	17.0	13.2	17.5	14.0
50代	15.0	12.1	15.3	13.3
60代以上	26.2	31.3	27.6	31.1

(出所) 観光庁「旅行・観光消費動向調査」

観光目的宿泊旅行者の交通手段(全国)

	H24	H28	増減率
飛行機	20,477	23,098	12.8
新幹線	28,447	33,905	19.2
鉄道(新幹線を除く)	48,200	56,185	16.6
自家用車	103,313	92,611	▲10.4
レンタカー	13,213	16,079	21.7
貸切バス	27,925	23,278	▲16.6
高速バス・路線バス	27,778	28,745	3.5
タクシー・ハイヤー	17,188	16,905	▲1.6
オートバイ・自転車	977	1,053	7.8
船舶	9,803	10,105	3.1
その他	2,177	1,882	▲13.5

(出所) 観光庁「旅行・観光消費動向調査」

<地域の声>

- ▶ 2次交通の利用拡大に向けた問題点は、PRのターゲットが明確でないことと思われる。(交通)
- ▶ 誘客効果は「シニア向け旅行商品(期間限定型)」の影響が大きい。(交通)

課題

⇒冬季における誘客

- ▶ 外国人観光客の拡大余地

⇒交通手段の変化への対応

- ▶ 2次交通の充実と情報発信